



広安小の保健室に設けた救護所で、スタッフに指示を出す「アムダ」の難波妙さん
(左) 益城町

避難者支援 復興信じて

益城町・広安小出身の難波さん 母校で医療チーム

益城町の広安小出身で岡山の認定NPO法人「アムダ」の理事難波妙さんが、熊本の4月15日朝、夫と益城町へ。母は広安小に避難し、老人ホームにいた父も無事だった。熊本市のホテルで本震に襲われながら、アムダの受け入れを実現した。

益城町の広安小出身で岡山の認定NPO法人「アムダ」の理事難波妙さんが、熊本の4月15日朝、夫と益城町へ。母は広安小に避難し、老人ホームにいた父も無事だった。熊本市のホテルで本震に襲われながら、アムダの受け入れを実現した。

益城町の広安小出身で岡山の認定NPO法人「アムダ」の理事難波妙さんが、熊本の4月15日朝、夫と益城町へ。母は広安小に避難し、老人ホームにいた父も無事だった。熊本市のホテルで本震に襲われながら、アムダの受け入れを実現した。

益城町の広安小出身で岡山の認定NPO法人「アムダ」の理事難波妙さんが、熊本の4月15日朝、夫と益城町へ。母は広安小に避難し、老人ホームにいた父も無事だった。熊本市のホテルで本震に襲われながら、アムダの受け入れを実現した。

道をふさいだ。「なぜ、ふるさとが…」。惨状に胸が詰まった。

それでも、避難者がひし

めく母校にしていると懐かしい。湿布をもらいに来たお

年寄りに付き添ってきた後輩の男性と、真夜中の廊下

で2人で校歌を歌った。「美しい郷 広安の／学童われ

ら 今日もまた」。故郷への誇りが込み上げてきた。

街並みは壊れたけれど、「この町は必ず復興する」と信じる。その主役になる

のは、健やかな被災者だ。「全力で支えたい」。難波

さんは、自らの役割をあらためて見つめている。

(益田大也)